

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月24日

【評価実施概要】

事業所番号	0972600308		
法人名	医療法人 北斗会		
事業所名	グループホーム高根沢		
所在地	栃木県塩谷郡高根沢町大字石末1005-8 (電話) 028-680-2231		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年10月3日	評価確定日	平成20年10月24日

【情報提供票より】 (平成20年9月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年11月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤7人(うち兼務2人), 非常勤2人, 常勤換算5.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 1階建ての1階部分		
------	-----------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理美容代, おむつ代一実費</li> <li>・水道光熱費—19,425円</li> <li>・日用消耗品費—4,500円</li> <li>・教養娯楽費—3,000円</li> <li>・電気代(持込機器)—52円/1日/1機器</li> <li>・レクリエーション代一実費</li> </ul>	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	350 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年9月22日現在)

利用者人数	5 名	男性	2 名	女性	3 名	
要介護1		2 名	要介護2		1 名	
要介護3		2 名	要介護4		名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	85.8 歳	最低	82 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高根沢中央病院, 奈良歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

同法人の老人保健施設が隣接しており、目の前には雑木林があり、訪問日にはコスモスが咲いていた。開設当初からの職員も多く、職員の自主性が増しておりチームケアができるようになってきたと管理者は考えている。認知症介護実践研修などにも積極的に参加させており、ホーム理念である一人ひとりのペースにそった支援の実践に全職員で取り組んでいる。訪問日にも食事を始める時間や終わる時間、その後の外出など柔軟な支援の様子が見られた。今後、町が主催する認知症の方への支援策についての話し合いの場に管理者及び家族の代表が出席することになっており、地域に向けた啓発やホームの周知が充実していくこと、また地域の中でのグループホームになっていくことが期待されるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果については運営推進会議で報告し、カンファレンスで職員間の話し合いをもちながら改善に努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、管理者が職員に個別に聞きながらまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者、入居者家族、地域の方(元民生委員)、町の職員が参加し、活動内容を報告したり、井戸端会議的に情報交換をしたりしている。外部評価の結果の報告も行っている。また、町が主催する認知症の方への支援策についての話し合いの場に管理者及び運営推進会議に参加してもらっている家族代表が参加することにもなっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月1回は利用料の支払いやケアプランの説明等で家族がホームを訪れており、その際に報告したり、必要に応じて家族の都合の良い時間に電話等で報告や相談したりしている。ホームだよりを半年に1回、隣接施設との合同の広報誌を3ヵ月に1回発行している。預かり金管理は行っておらず、日常の買い物等は立て替え払いで行っている。職員の交代があったときは、家族が訪れた際に紹介したり、広報誌で伝えたりしている。重要事項説明書にホームの苦情受付の体制を明記しており、玄関に苦情受付に関するポスターを掲示している。法人としての苦情対応に関する委員会もあり、苦情を受け付けた時は解決を図り、ホーム運営の改善に活かしている。家族からの意見や要望があった時は、申し送り職員間の共有を図っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	散歩や買い物時に地域の方と挨拶を交わしたり、産業祭りや文化祭など町の行事に出掛けて地域の方と交流する機会をつくっている。町民広場や町民ホール、郷土資料館など公共施設が近くにある。自治会や老人会には加入していない。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「お一人お一人のペースを尊重した『自分らしい生活』援助させていただきます」「家庭的な雰囲気づくりに努め『真心ある介護』を提供させていただきます」を開設以来のホーム理念としている。いずれは地域に対することも理念に盛り込むことを考えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を職員に配布し、また事務室に掲げ、玄関には入居者に書いてもらった「自分らしく高根沢」と書かれた色紙が掛けている。職員に理念を配布し、職員会議などで話し合いをして理念の実践に努めている。訪問時の昼食の様子や昼食後の外出なども一人ひとりのペースで支援している様子がうかがえた。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩や買い物時に地域の方と挨拶を交わしたり、産業祭りや文化祭など町の行事に出掛けて地域の方と交流する機会をつくっている。町民広場や町民ホール、郷土資料館など公共施設が近くにある。自治会や老人会には加入していない。	○	町が主催する認知症の方への支援策についての話し合いの場に管理者及び家族の代表が出席することになっている。地域の方の理解が深まっていくことで入居者が地域で生活しやすくなることも考えられるので、地域で暮らすための支援を更に充実させていくことに期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果については運営推進会議で報告し、カンファレンスで職員間の話し合いをもちながら改善に努めている。今回の自己評価は、管理者が職員に個別に聞きながらまとめた。		

グループホーム高根沢

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、入居者家族、地域の方（元民生委員）、町の職員が参加し、活動内容を報告したり、井戸端会議的に情報交換をしたりしている。	○	町が主催する認知症の方への支援策についての話し合いの場への参加することを活かした運営推進会議の持ち方（参加メンバーを増やすなど）を検討していくことにも期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の職員が運営推進会議に参加し、また広報誌にホームのことを載せてもらったり、町が主催する認知症の方への支援策についての話し合いの場に管理者及び家族代表が参加するなど町とともにサービスの質の向上や地域での認知症ケアの推進に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回は利用料の支払いやケアプランの説明等で家族がホームを訪れており、その際に報告したり、必要に応じて家族の都合の良い時間に電話等で報告や相談したりしている。ホームだよりを半年に1回、隣接施設との合同の広報誌を3ヵ月に1回発行している。預かり金管理は行っておらず、日常の買い物等は立て替え払いで行っている。職員の交代があったときは、家族が訪れた際に紹介したり、広報誌で伝えたりしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームの苦情受付の体制を明記しており、玄関に苦情受付に関するポスターを掲示している。法人としての苦情対応に関する委員会もあり、苦情を受け付けた時は解決を図り、ホーム運営の改善に活かしている。家族からの意見や要望があった時は、申し送りで職員間の共有を図っている。	○	家族にホームに来てもらって入居者の様子を見てもらうような働きかけが今年になって特に増えてきている。また、職員皆で家族と関わってきたいということが聞かれた。職員と家族の顔馴染みの関係・信頼関係をつくりながら、家族が意見や要望、苦情等を伝えやすい雰囲気づくりを深めていくことに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年では離職に伴う職員の交代が1名と異動離職は少ない。職員を採用する時には法人の人事担当者だけでなく、ホームからも管理者や職員が面接に同席し、ホームに合う方かどうか意見を述べられるようになってきている。離職・異動後も職員が遊びにくるなど関係を切らない配慮もしている。育児休業など働きやすい関係づくりにも配慮されている。		

グループホーム高根沢

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践研修の実践者研修の修了者8名、実践リーダー研修修了者4名と積極的に外部の研修の機会を活用している。その他の外部研修にも職員の希望を取りながら参加し、終了後はカンファレンスの時に報告して職員間の共有を図っている。法人としての研修体系もあり、入職年数によって受講している。外部研修及び内部研修の受講記録をつくっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入し、管理者以外の職員も研修などに参加している。同町内のグループホームで実習させてもらったり、入居者に遊びに来てもらったりといった交流もしていたことがある。他市の事業所に職員が見学にいたりすることもある。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人にもホームに来てもらうようにしており、入居者や職員と1時間程度過ごしてもらったりしている。事前にホームに来ることが難しい場合は管理者及び職員が本人のもとに出掛けて面接している。入居後は、場合によっては自宅に泊まりに行ってもらったり、ホームでの役割を持ってもらうなどして徐々に馴染めるよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	無理のない範囲で家事を一緒に行っており、風呂掃除を役割にしている入居者もいる。お盆や月見などの習わしごとや煮物の味付け、針仕事などを教わったりしながら、本人から学んだり支え合う関係づくりに配慮している。		

グループホーム高根沢

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3年ほど前からセンター方式のアセスメントに取り組んでおり、家族からも協力してもらって本人を知ろうと努めている。生活の中で職員と1対1の関係をつくることも大切にしており、本人の思いや意向を把握するよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を踏まえながら、カンファレンスで職員の意見も聞き、また必要に応じて隣接施設の医師や作業療法士、支援相談員などの意見も取り入れて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には3カ月に1回、会議を持って介護計画の見直しをしている。また、入居者の状態に変化があった時などは家族と連絡を取り合って、随時現状に即した計画の見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	今までに利用の例はないが、短期利用共同生活介護（ショートステイ）の指定を受けている。法人内病院への受診付き添いや少人数でのドライブなど柔軟な支援に努めている。また、併設の老人保健施設に申し送りをしたり、看護師に相談したりといった連携もしている。		

グループホーム高根沢


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医での受診付き添いは家族が対応することとなっており、状況確認や処方薬の確認など家族と連携して適切な医療が受けられるよう配慮している。隣市の法人の病院での受診や緊急時には職員が付き添っている。健康状態について隣接の老人保健施設の医師に相談したりもしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今までに看取りの例はなく、看取りの指針等も今のところ作成していないが、ぎりぎりの状態までホームでの生活を支えたことはある。	○	入居者の状態に関わらず、今でもターミナルケアを意識しながらケアをしているという言葉が管理者から聞かれた。また本人に対してだけでなく家族に対してのケアの勉強もしていきたいということが聞かれた。今後、入居年数が長くなっていく中で、折にふれて職員間の話し合いをしながら、ホームでできること・難しいことを踏まえ、本人や家族の希望にそった対応ができるような体制づくりをしていくことに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇のマニュアルをつくっており、法人にサービス向上委員会などもある。本人を受容しながら尊厳を保てるような支援に努めている。自身で居室の鍵を開け閉めしている方もいる。法人はプライバシーマーク取得の準備をしており、個人情報保護に関して職員がテストを受けるという仕組みもある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の細かなスケジュールは決めておらず、一人ひとりのペースを大切にした支援に努めている。訪問日には昼食を早めに食べ始めたり、昼食後に少人数でドライブに出掛ける姿が見られた。		

グループホーム高根沢

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳、下膳などは本人にしてもらうようにしている。入居者にサツマイモやトウモロコシ、ミョウガなどの下準備をしてもらったりしている。家庭菜園でナスやピーマンなども育てている。朝食はパンかご飯を選ぶようにもしている。会話を楽しみながら、職員も入居者と一緒と同じものを食べていた。食材は近くのスーパーに買い出しに出掛けている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の習慣を大切にして職員間で話し合いながら支援しており、夜間に入浴している方もいる。入浴の苦手な方にも週に2回は入ってもらえるよう支援しており、ほぼ毎日入浴する方もいる。入浴剤を入れたりもしている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	モップや掃除機での掃除、洗濯物干し・たたみ、もやしの芽切りやきぬさやのスジ取りなど調理の下準備、風呂掃除など、できることや役割などに配慮して支援している。そろばん、書道、絵画（アートセラピー）、畑仕事、和紙細工、お手玉人形づくり、ドライブ、散歩など得意なことを活かしたり、楽しみごと・気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩、ドライブなど入居者の希望やその日の状況に応じて外出の支援をしている。ベンチに座ってガーデニングをしたりと外気に触れる機会もつくっている。訪問日にも入居者が職員と一緒に自分の行きたいところをドライブしてくる様子が見られた。行事的な外出も取り入れている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は施錠するが、職員の見守りのもと日中は鍵をかけないケアを実践している。玄関にはチャイムもついているが、入居者が外出したような時には職員が声をかけて付き添うようにしている。		

グループホーム高根沢

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、防災訓練をしており、直近では8月に夜間想定の実施した。消防署が比較的近い距離にあり、隣接する老人保健施設との連携も取れるようになっている。	○	地域との連携については、今後検討していきたいと考えている。運営推進会議で話し合ったり、町が主催する認知症の方への支援策についての話し合いの場に参加することを活かして、防災面からの地域との関係づくりに取り組んでいくことに期待したい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のアドバイスを受けつつ、好みやこれまでの食習慣にあったものを提供できるよう努めている。食事摂取量を確認・記録し、水分も必要な時に記録している。毎月体重測定も行っており、適切な栄養や水分が摂取できるよう支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室に置いてあるついたて、ソファ、棚、テレビ台など役職員が使っていた物の寄付物品が所々に配置され、家庭的な雰囲気づくりに活かされている。畳コーナーのほか、中庭に面した廊下部分にイスとテーブルを置き自分の好きな場所で過ごせるような配慮もされている。リビング部分の天井は大きな吹き抜けになっているが、日差しが強いため手作りで布をはっている。音や換気も適切に配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	こたつやテレビ、タンス、ベッドなどが持ち込まれており、仏壇を持ってきていた方がいたこともあった。家具の配置も含め、それぞれに特徴ある居室づくりがなされていた。自身で居室の鍵の開け閉めをされる方もいる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。